

就任あいさつ

上島町長 上村 俊之



上島町が誕生し早くも8年の月日を数え、9回目の秋を迎えました。

上島町町政3期目の歩みが始まり、引き続き町長という重責を担うことになった上村俊之でございます。町民の皆様からの信任にお応えするため、我が身を犠牲にしてでも他人の為に尽くす「仁」の精神で、今後も全力を尽くしてまいります。

今日までの8年間、「思いやりのある 健康・福祉のまちづくり」「活気あふれる産業のまちづくり」「心豊かな 教育・文化・スポーツのまちづくり」「地方分権にふさわしいまちづくり」を公約とし、町民の皆様のご協力により多くの約束を果たす事ができました。

政治は政策論ではなく結果

だと言われますが、上島町では様々な施設を整備した上で、地方自治体の財政の健全化指標である実質公債費比率が県内20市町中上位第4位、将来負担比率が第7位、財政の柔軟性（余裕度）を測る指標である経常収支比率が第2位、人口減少率では町比較で第3位の低さという、離島としては希な健全財政運営と定住促進効果が表れています。この数字は上島町がボランテア活動参加率県下No1という実績も合わせ、「世界に誇れる品格あるふるさと」の証と言えるのではないのでしょうか。

上水道・下水道・光通信等のインフラ整備も100%完備しています。施設ではなく、心の豊かさにおいて大都会に優る、誇り高きふるさとづくりに積極的に御協力頂いている町民の皆様には心からの敬意を表します。

さて、歴史風土などの異なる町村の合併という誰も経験していなかったその困難は、今回の選挙戦にも大きな影響を与えました。私はリーダーとして真つ直ぐに筋道を貫くことで、上島町という統一された町を創り上げるための方向性を示しましたが、財源に限りがある中では、全ての地域を同時に整備し、大きな施策を実施することができない

という行政運営となり、町民の皆様には誤解を含めた不満もあったと思います。

しかし、今回の選挙戦において多数の町民の皆様からの暖かいお声やご支援、あるいは上島町を良くするための純粋な勇気を直接肌身で感じ、改めて私の政治信条の基でぶれる事の無い上島町行政を運営することの重要性和責任を確信致しました。それと同時に、昔ながらの「働く私の背中を見て下さい」だけでは町民の皆様には真意が十分に伝わっていない事を感じ、細かく丁寧な説明を定期的に実施しなければならぬ事の大切さも学びました。

また、上島町内の今季の秋祭りにおいて、各地の祭りに他の地区の支援がありました。が、生名島の子供みこしを弓削島の中学生が担ぎ、下弓削の奴行列に生名島や他の地区の中学生が参加したように、すでに子ども達の中には旧町村の垣根はなくなっています。今後は大人の固定観念にある、おらが島、おらが地域を最優先する視点からではなく、上島町全体を「我がふるさと」として等しく愛して頂きます事を、町民の皆様切にお願い申し上げます。

私は今年の上島町の秋祭りほど、見事で誇らしく感じた事はありません。当日、初めて「祭りは楽しい」と心底感じました。帰郷して25年以上、町長に就任するまで、秋祭りの役員としてお祭りのお手伝いをさせていただきましたが、当時は責任ばかりが重く感じて、楽しい時などありませんでした。今年の祭りが楽しく明るく感じたのは、町長選挙への重圧からの一時の開放感と共に、純粋に祭りと接する事ができたからかもしれません。今まで感じていた以上に、上島町の祭りに歴史と伝統がある事を再認識できたからだと思います。秋祭り後の弓削高文化祭や商船祭を含め、この小さな離島に、こんなに多くの文化と活力が満ち溢れていることを誇りに思います。これは日本人性の素晴らしい町は、日本中探してもなかなかありません。「日本で最も美しい村連合」に参加が認められている理由は瀬戸内の景観だけではなく、住民の心の美しさにあるのではないのでしょうか。

この文化を築き上げた、先人たちの懐の大きさに感謝と敬意を捧げ、2年後に控えている「瀬戸内しま博覧会」の場において、この伝統と美しさを世界に発信すべきだと考えています。

私達上島町民にとって3期目の町政は、共に一つの上島町を育む事です。私達は魚島村や生名村や岩城村や弓削町の寄せ集めではなく、すでに「上島町民」なのです。

結びに、私も上島町行政の先頭に立ち、職員全員が町民の皆様のため、町民の側に立つた行政運営を全力で努めてまいります。愛するふるさと、町民の皆様様の幸福の為、国や県に積極的な提言を行い、時には果敢に闘いを挑み、対等な立場で協議を進めてまいります。



11月7日 初登庁